

2-2: スプリング

自由長やレートの変更は自由だが、サーキットまでの往復を含む公道走行時は9cm以上の最低地上高が確保されており、縦方向に遊びがない状態ではいけない。

※レース中は最低地上高が9cm以上である必要はない。

2-3: ダンパー

倒立式や別タンク式を含めて、変更が認められる。材質は自由で、減衰力を室内から調整するコントローラーも使用できる。

2-4: サスペンションアームなどパーツの変更について

車検対応品であり、市販化されているパーツであれば(ワンオフパーツは不可)変更を認めます。

上位車両の再車検時に、車検対応ならびに市販パーツであることを証明できるカタログ、ウェブサイト画面のコピーなどの提示を求める場合があります。

サスペンションパーツに限らず、交換部品については(？クラスを除いて)同様とします。

2-5: 制動装置

ポルトオンで装着可能なブレーキパッド/ローター/ホース/キャリパー/マスターシリンダーなどの装着が許される。またバックプレートの取り外しは認められ、マスターバックの取り外しは認められない。※ドラムブレーキからディスクブレーキへ変更する際は、必ず公認車検を取得し書類を持参すること。

■駆動系

3-1: クラッチ

ディスク/カバー/ホースの変更が認められる。

3-2: トランスミッション

①④クラス: ファイナルギヤを含め、変更が認められる。

②③クラス: ファイナルギヤを含め、変更が認められない。

3-3: ディファレンシャル

①④クラス: 機械式LSDの使用が認められる。

②③クラス: 機械式LSDの使用は認められない。

3-4: 駆動方式

①④クラス: ベース車両の駆動方式を変更することができる。

②③クラス: ベース車両の駆動方式を変更することはできない。

3-5: A TからM TまたはM TからA Tへの換装

オートマチックからマニュアルミッションを変更した車両、またはその逆の変更を行った車両はクラスを問わず出走できる。ただしナンバー付き車両は必ず公認車検を取得しなければならない。

■タイヤとホイール

4-1: タイヤ&ホイール

タイヤ&ホイールは下記の要件をすべて満たさなければならない。

A) タイヤサイズは自由だが、4輪は同一の銘柄、同一のサイズとする。

B) ホイールのオフセットは自由で、4輪とも同一である必要はない。

C) ホイールナットの材質および形状の変更は許される。

D) タイヤへの加工は認められない。

※タイヤの加工は特に悪質な違反と見なす。

E) ホイールスペーサーはハブボルトに固定できるタイプのみ認める。

F) タイヤとホイールは、いかなる場合も他の部分と接触してはいけない。

G) レース終了後を含み、スリップサインが出てはならない。

H) ホイールのバランスウェイトにはテーピングを施し、走行中に脱落しないように処置すること。

I) 他車と接触したときのダメージを軽減するため、ロングタイプのホイールナットを先端がタイヤおよびホイールの最外縁部より飛び出してはならない。

4-2: 使用タイヤ

タイヤは市販ラジアルのみ、Sタイヤおよびスリックタイヤは禁止。

①②④クラスはすべての市販ラジアルタイヤを使用できる。

③クラスは以下に記載したタイヤを使用できない。

※タイヤは予選と決勝を通じて4本しか使用できず、車検時にマーキングが施される場合がある。

パンク時のみ事務局に申し出て交換する事を認める。

③クラスで使用禁止のタイヤ

ブリヂストン: ポテンザ RE-71A, RE-11A

ヨコハマ: アドバン・ネオバ AD08R, AD08

AD07, AD06

ダンロップ: ディレッツァ Z3, Z2

グッドイヤー: イーグルRSスポーツ エススペック

クムホ: エクスタ V700

ハンコック: ヴェンタスV12evo2

フェデラル: 595RS-RR

ATR: Kスポーツ

ナンカン: NS-2R

ケンダ: KR20A

※上記のタイヤ以外でも、年代に関わらずいわゆるハイグリップラジアルに分類されるタイヤは禁止とする。また、使用禁止のタイヤはシーズンの途中で追加になる可能性がある。

③クラスで使用可能か判断できない場合は、必ず事務局へ確認すること。確認のないまま使用した場合はクラス変更または何らかのペナルティが与えられる。

■ボディ

5-1: ボディ補強

ポルトオンの補強バーなどを取り付けることは認められるが、スポット増しを始め溶接などによるボディ補強はすべて禁止とする。

5-2: ロールケージ

全クラス: セントラルローカルルールに基づき、6点式以上のロールケージ装着を強く推奨する。

未装着でも出場可能とするが、【5-4】軽量化の項目に注意

5-3: モノコック

モノコックの変更および改造は認めない。

5-4: 軽量化

6点式以上のロールバーを装着していない車両は車体重量をイコールコンディションに近づけるため、次のルールが適用される。

- ・ボンネットやリヤゲートなど、軽量ボディパーツの使用を禁止とする。
- ・レース中に助手席や後部座席を取り外してはならず、さらに助手席は純正またはセミバケットシートを装着しなければならない。
- ・レース中もスペアタイヤを搭載しなければならない。

■外装

6-1: 自動車登録番号標(ナンバープレート)

レース中のみ取り外しや変更が認められる。

6-2: 空力装置(エアロパーツ)

保安基準に抵触しない限り問題はないが、ボディ幅が軽自動車のサイズを超えるフェンダーなどは認められない。構造変更を行なったとしても禁止とする。

6-3: ガラス

フロントガラスを変更する場合は、新車時に装着されていたものと同じ合わせガラスに限り認める。アクリルガラスの使用はフロント/サイド/リヤとも認められない。フロントおよびフロントサイドガラスへの塗装、色付きフィルムの貼り付け、ステッカーの貼り付けはすべて認められない。サイドおよびリヤガラスは保安基準に抵触せず、かつ視界の妨げとならない限り、色付きフィルムやステッカーの貼り付けを認める。

6-4: ボンネットおよびリヤゲート

・6点式以上のロールケージ装着車に限り、安全な範囲での変更および加工が認められるが、ボンネットピンなど確実な方法で固定してすること。リヤゲートのダンパーはガスを抜き、ピンで固定することを推奨する。

・③クラスのボンネット、リアゲートについて【変更不可】

③クラスは、ボンネットとリアゲートは純正を使用すること。交換している車両は②クラスでの参加となる。

6-5: ミラー

室外ミラーの変更を認める。

6-6: ドア

軽量ドアの装置、サイドドアビームの切断など加工はすべて認められない。純正サイドドアビームと同等以上の強度を確保したサイドバーを装着した場合のみ、純正サイドドアビームの切断や取り外しが認められる。

6-7: 牽引フック

牽引フックなどの速さや動力に関係ない部分は車検で失格にはならないが、強く装着を推奨する。

■内装

7-1: エアコンおよびヒーター

エアコンおよびヒーターの取り外しは認められず、いかなる場合においても正常に作動しなければならない。エアコンベルトの取り外しも禁止する。

7-2: 補助メーター

電気式メーターに限り、追加メーターを装着することが認められる。ただし純正メーターは当初の機能を保持していなければならない。取り付け方法と位置に関しては、乗員の保護と視界の確保を考慮すること。

7-3: 座席

バケットシートへの変更を認める。ただしシートを車体フレームへ直に取り付けることや、スライド機構がないシートレールは認められない。また6点式以上のロールケージ装着車両は、レース中に運転席を除くシートを取り外すことができる。

7-4: ステアリング

ステアリングボスを含め、保安基準に抵触しない範囲での変更が認められる。

なおエアバッグ付き車両は、レース中はエアバッグコンピューターのコネクターを外し、作動をキャンセルさせなければならない。

7-5: シートベルト

シートベルトは確実な方法で装着しなければならない。シートレールへの共締めは禁止。

①④クラス: 4点式以上のシートベルトの装着を義務付ける。

②③④クラス: 3インチ幅で4点式以上のシートベルトを強く推奨する。なお2018年から2インチ幅および後部の取付箇所が1か所のシートベルトは使用禁止とする。

7-6: 室内ミラー

純正ミラーに被せるタイプのミラーは、競技中に限り取り外すこと。
以上

4輪専用サイト「Meisterclub」

各イベント開催日程や規則書、申込用紙、リザルト等
様々な情報あり!!

<http://meisterclub.net/>

Facebookでは

『K-car meeting』で検索!!